1992 年 1 月創刊
発行　澤根哲郎税理士事務所
http://www.sawane.com

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

『仕事ができる人のパワポはなぜ2色なのか？』越川真司著 アスコム　279頁　1400円（税別）

本書の主張は、仕事を早く終わらせる最大のポイントは、無駄な仕事をしないことだと言うことです。つまり、仕事の遅い原因はやらなくてもいいことをやっているからだと言うことです。本書を通じてそのノーハウを紹介しています。以下に簡単に内容をご紹介します。

★パワポはなぜ 2 色なのか：著者はかつて、PowerPoint 資料を AI で分析し、商談での成果と比較検討した。その結果、商談での成功率が最も高いパワポは 1 スライドあたり 108 文字以内、使われている色は 3 色以内だった。色については、2 色が最も効果的だった。文字については、多すぎるとプレゼンの席で読むことができないし、色数も多すぎると目移りして目が疲れる。文字や色数が多いと言う事は、作成の時間がかかると言うことであり、営業もその結果、成功率が低いと言うことになる。

★「水を飲みたがっている相手にコーヒーを出す」：このようなこと、やっていないか。「伝える(自分が主役)」ではなく、「伝わる(相手が主役)」へと立ち位置を変えることが大切だと言う事。水を飲みたいと思っている相手にコーヒーを出しても飲んでくれない。相手が欲しがっているものを出せば喜んで飲んでくれる。「この商品は、この部分がこだわりポイントです」といくら熱っぽく説明しても、それが売り手側の都合だけであって、買い手の欲しているものではない時は、意味がない。買い手の知りたいことを知らせないといけない。

★メールの件名「田中です」という件名が時間泥棒になってしまう理由：件名を見ても何のメールなのかわからないからだ。それに、この間のメールはどこだっけ」と過去のメールを探す時も、同じタイトルばかりで、なかなか見つからない。メールの件名には、件名を見た相手が、「何に関するメールなのか」「自分にどんなアクションが求められているのか」が分かる件名をつけることが大切だ。例えばこんな件名ならスルーされる事はないだろう。「〇〇書類の提出期限」「承認依頼・　・〇〇者向けの提案書」このように書けば、要点と求めるアクションが一目でわかる。

★100 文字超のメール：メールは 100 文字を超えると閲覧される確率が一気に下がる。短くし、中身の濃いメールにするためのコツには次のようなことがある。・要点(目的・理由・背景)を先に書く・相手に求めるアクションを書く(「いつまでに・誰が・何を」の 3 つを意識する)

★ 1 分詐欺：「1 分だけ時間をください」と言う人の話は 1 分で終わらないことが多い。「ちょっと 1 分いいですか」と言ってきた相手が 1 分以内に帰る確率は 1%未満と言うデータがある位だ。おまけに何を言っているのかがわからないことがある。とんだ時間泥棒、1 分詐欺だ。短い時間で話すメソッドとして、有名なものに「プレップ法（PREP）」がある。日本語で言えば「結論（P）」「理由（R）」「具体例や根拠（E）」「再度の結論（P）」。聞く側としては、先に結論を言ってもらってから、理由を説明してもらったほうが効率的だ。もし相手が「1 分だけ」と相談を持ちかけてきたら「まず、結論から話してくれ」と返してみるのがいいだろう。

2023　ALL RIGHTS RESERBED
澤根哲郎税理士事務所

1992 年 1 月創刊
発行　澤根哲郎税理士事務所
http://www.sawane.com

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

トム・ソーヤーのペンキ塗り

トム・ソーヤーのペンキ塗りの話は、19世紀に発表されたアメリカの小説『トム・ソーヤーの冒険』に出てきます。著者はマーク・トゥエイン。この話は、ビジネス書によく出てきます。どんな話でしょうか。仕事に使えるのでしょうか。

トム・ソーヤーは、嫌でたまらないペンキ塗りの仕事を友達にやってもらって、おまけに友達からお礼までもらうと言う話です。

ちょっと詳しくお話ししましょう。

トムはペンキ塗りをしなければならないが、嫌でたまらない。通り掛かった友達に、ペンキ塗りをしてくれれば、代わりに水汲みをしてやると言ったが拒否された。自分の持ち物を友達に渡して仕事をしてもらおうかと思ったが、とても足りない。絶望のどん底でトムは思いついた。

友達がやって来るのを見て、トムはアーティストのようにペンキを味わいながら塗った。いかにも楽しそうに。

友達は仕事をしているんだねと言ったが、トムは、嬉しそうにペンキ塗りを続ける。子供でこんなペンキ塗りのチャンスをもらえるなんてなかなかないぜと言う。

友達はそれを聞いて、ペンキを塗りたくて仕方がない。何度も塗らしてくれと頼むが、トムは塗らせない。

とうとう友達は言った。今自分が食べているりんごのシンをやるからと。

トムはそれで手を打った。

友達は、次から次にやってきて、何かをトムにあげて、代わる代わるペンキ塗りをさせてもらった。仕事はあっという間に終わり、言いつけたおばさんは現場を見てびっくりした。仕事が早いし、丁寧に仕上げているからだ。

そこで、著者のマーク・トゥエインが仕事と遊びの違いについて言うのは、仕事と言うのは、人に言われてするもの、遊びと言うのは人に言われないでする、と。

以上、トム・ソーヤーのペンキ塗りの話をまとめてみました。私があらためて思ったのは、遊びと言うのは馬鹿にしてはいけないんだと言うことです。仕事と遊びを間違えるなとか、遊びじゃないんだから真面目にやれとか言いますが、自分の子供の頃を考えてみると、遊ぶときは、みんな真面目に一生懸命やっていたと思うのです。大人になってからもそうではないでしょうか？何か好きなことがあれば、人は時間を惜しんで好きなことを一生懸命する。だからこそ、トム・ソーヤーの友達は、早くきれいにペンキを塗ることができたのです。

そして遊びと仕事の違いが、義務でするのか、義務ではなく自分からするのかと言うことであるのならば、義務の範囲を小さく、自分で決められることを大きく設定して仕事をしてもらえば良いのではないかと思います。細かい指示を次から次へと出して経営することをマイクロマネジメントと言って最悪の経営形態とされていますが、そういう風に細かいことを言えば、義務の要素が強化され、遊びの部分がなくなってしまうからだと思います。

仕事と遊びについて思うのは、仕事も面白くできれば、それに越した事は無いのではないかということです。面白くできれば、真面目に一生懸命工夫して成果も素晴らしいものになるのではないでしょうか。

2023　ALL RIGHTS RESERBED
澤根哲郎税理士事務所